

&lt;第32回調査&gt;

2012年1月30日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2012年1月17日(火)13:00~2012年1月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1736件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

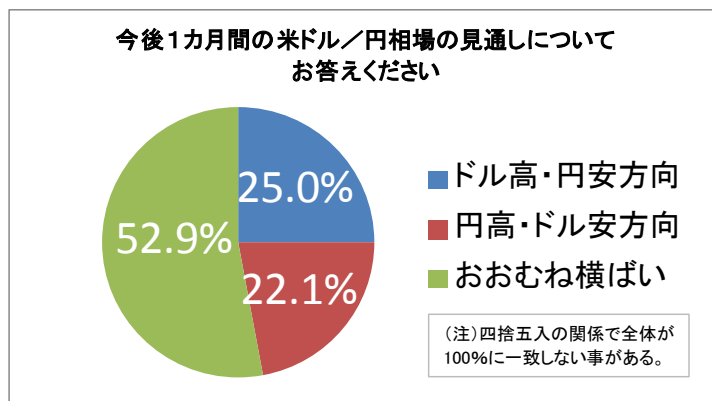
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第32回調査結果略報：FX投資家のユーロ弱気継続】

### 問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

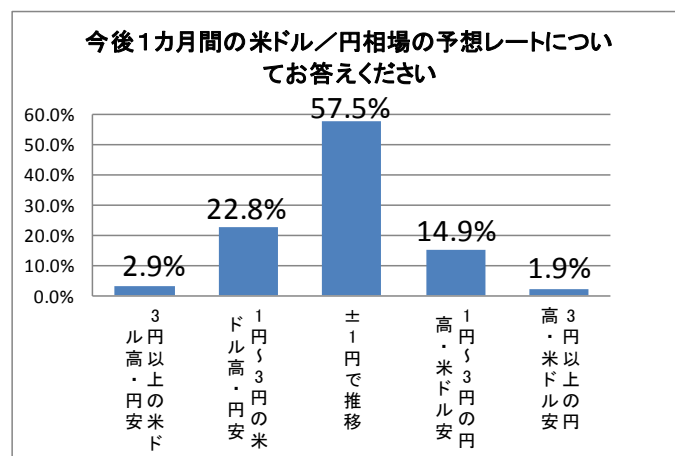
「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が25.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が22.1%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+2.9%ポイントとなり、前回調査からプラス幅は縮小したもののドル強気・円弱気予想をkarouじて維持した。もっとも、調査期間中のドル円相場が76.55円から77.31円という狭いレンジで推移したことから「おおむね横ばい」予想が52.9%と過去最大の回答割合を記録しており、FX投資家が、ドル/円相場に方向感を見出しにくい状況が改めて浮き彫りとなった。後述のユーロ円相場の見通しが、はっきりとユーロ安・円高予想に傾く中、FX投資家の「ドル円離れ」が懸念される。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が57.5%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が22.8%、「1円～3円の円高・米ドル安」が14.9%、「3円以上の米ドル高・円安」が2.9%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.9%の順になった。ヒストグラムの形状に目立った傾きは見られず、ほぼ左右対称となっている。問1で、「おおむね横ばい」予想が最も多かった結果と整合的である。また、「ドル高・円安」及び「円高・ドル安」を予想した向きも、ほとんどが3円以内の値動きを想定しており、ドル円相場の波乱を予想する声はごく少数だ。



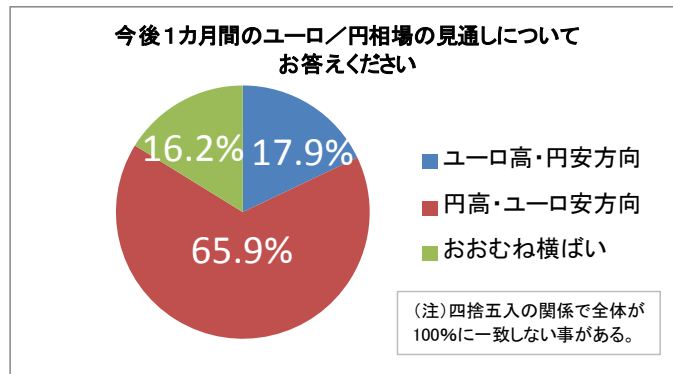
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が17.9%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が65.9%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲48.0%ポイントとなり、前回調査からマイナス幅はやや縮小したものの圧倒的にユーロ弱気・円強気予想が優勢となった。調査期間中のユーロ円相場は、6営業日中5営業日で上昇するなど97.14円から100.49円のレンジで堅調に推移した。それにもかかわらず、予想DIはわずかに前回調査を下回るマイナス幅にとどまるなど、FX投資家のユーロ弱気・円強気姿勢が揺らぐ事はなかった。調査期間中の反発はあくまでも一時的なものとしているようだ。

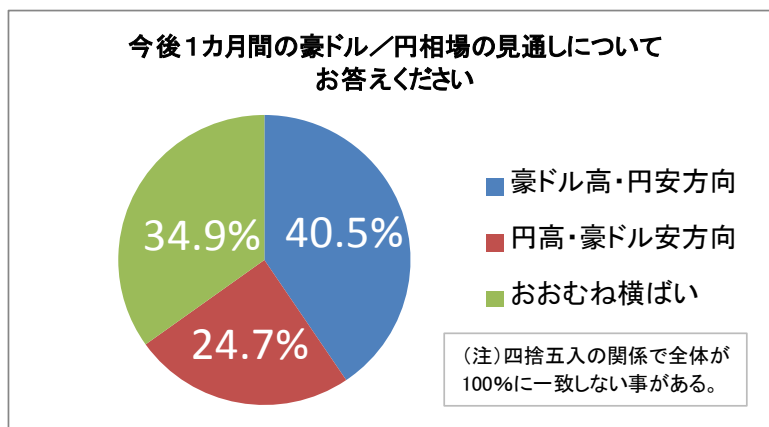
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



**問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が40.5%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が24.7%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+15.8%ポイントとなり、前回調査の▲14.2%ポイントから豪ドル強気・円弱気姿勢に転換した。調査期間中の豪ドル/円相場は、欧州債務問題への懸念がやや緩和する中、79.11円から81.43円のレンジで堅調に推移し、昨年11月以来の高値を更新した。米国や中国の景気回復期待にも支えられて世界的に株価が上昇傾向となった事が、FX投資家心理の改善につながったと思われる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

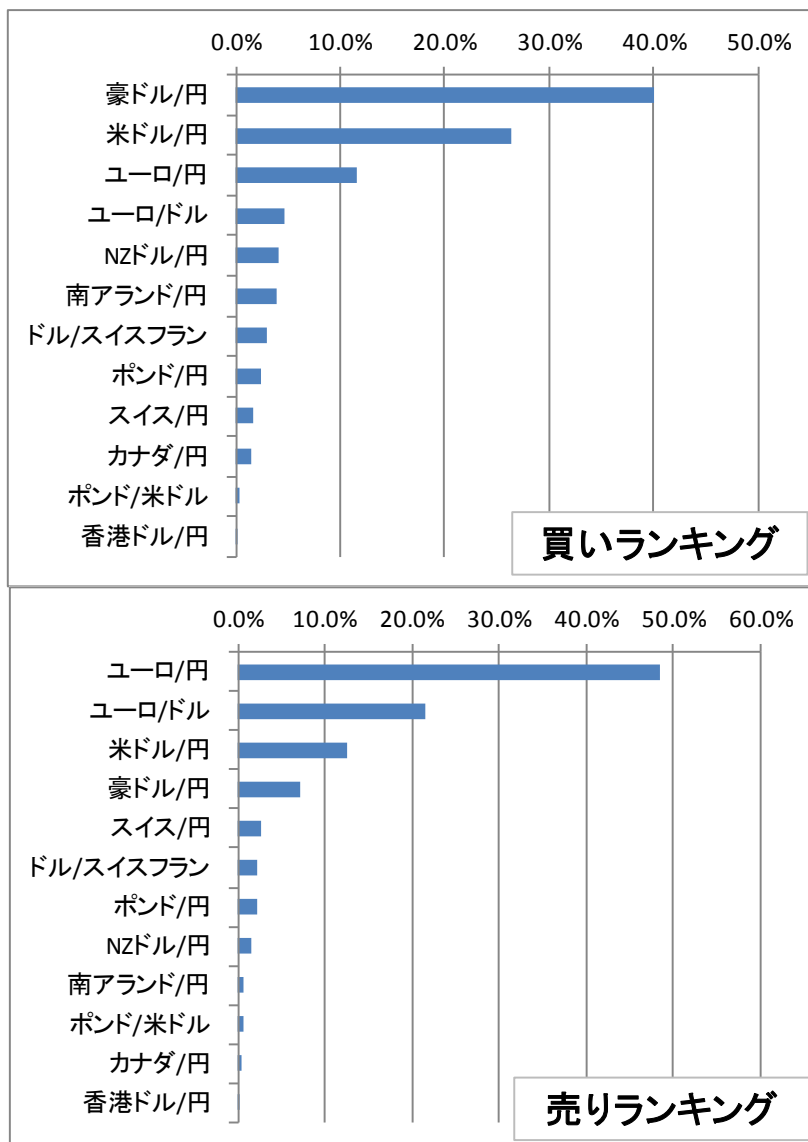


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(40.0%)、2位ドル円(26.3%)、以下3位ユーロ円(11.6%)、4位ユーロドル(4.6%)、5位はNZドル/円(4.1%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(48.4%)、2位ユーロドル(21.5%)、3位ドル円(12.6%)、4位豪ドル円(7.1%)、5位スイス円(2.6%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、豪ドル円が1位に返り咲いた。豪ドル円は、毎回、ドル円と首位争いを演じているが、今回は問1と問4における結果の差がランキングにそのまま反映されたようだ。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、前回調査に続いてユーロ円が1位となったが、その回答割合は37.1%から48.4%に上昇している。半数近くのFX投資家は調査期間中のユーロ反発を戻り売りのチャンスと捉えている可能性が高い。

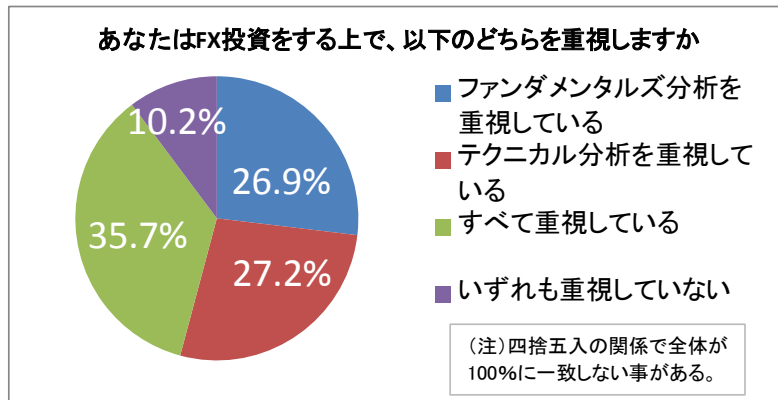


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

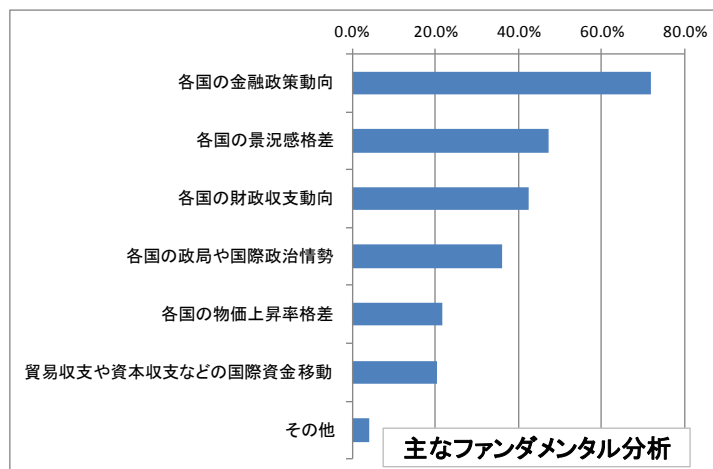
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.9%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.2%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が35.7%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.2%であった。調査開始以来3年近くになるが、こうした回答割合に目立った変化は見られない。この間には各通貨ペアで様々な相場変動が見られたが、FX投資家の分析スタイルは、相場動向には左右されにくいようだ。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?**

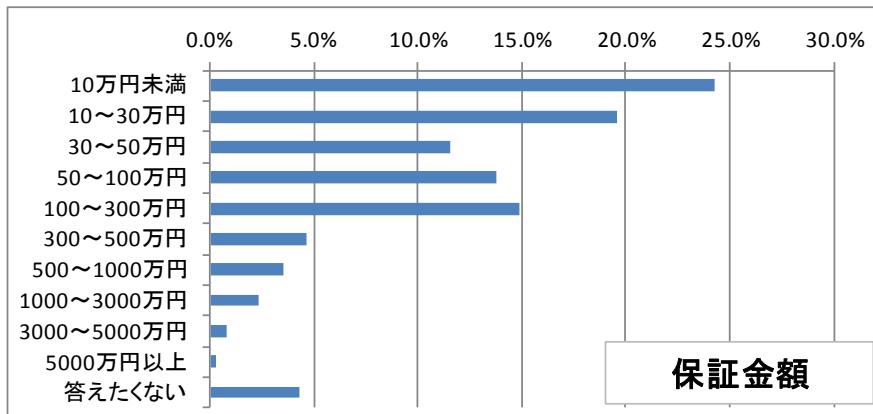
「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(72.0%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(47.3%)」、「各国の財政収支動向(42.4%)」、「各国の政局や国際政治情勢(36.1%)」、「各国の物価上昇率格差(21.9%)」の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めた。為替相場を動かす大きな要因のひとつが「金利差」であり、「各国の金融政策動向」に最も注目が集まる傾向は調査開始以来変わらない。その一方で、先進国・地域を中心に財政赤字が問題に挙げられる中、「各国の財政収支」に注目する向きが徐々に増えている点は、FX投資家が時事問題に敏感な様子を表している。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

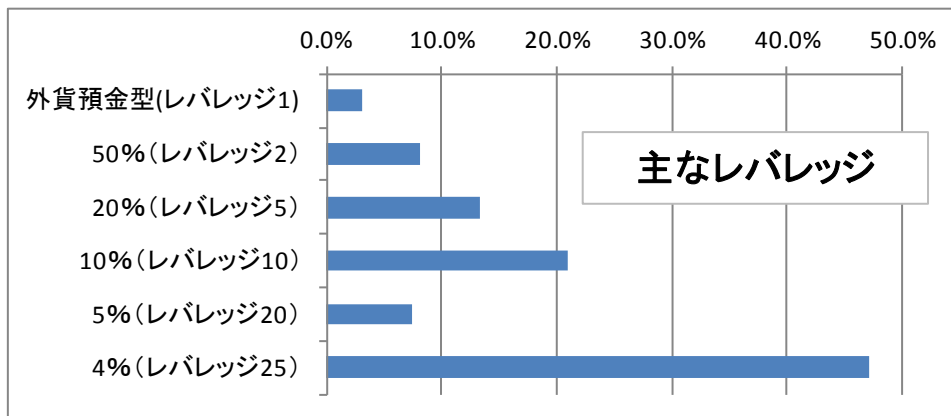
**問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください**

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.3%と最も多く、以下「10～30万円(19.6%)」、「100～300万円(14.9%)」、「50～100万円(13.8%)」と続いた。引き続き、100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合が69.3%と高い。一方で、1000万円以上の保証金で取引を行うと答えた合算割合は3.5%にとどまった。小額の保証金で取引が可能というFXの特性を良く表しており、改めてFX投資家の裾野の広さを感じさせる結果となった。



**問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？**

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が47.2%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が21.0%、以下「20%(レバレッジ5)」が13.3%、「50%(レバレッジ2)」が8.1%、「5%(レバレッジ20)」が7.4%と続いた。「4%(レバレッジ25)」が半数近くを占めており、昨年8月のレバレッジ規制以降はこの傾向が定着している。問8の結果とあわせて考えると、小額の保証金で最大のレバレッジを活用した取引が主流である事になる。店頭FX市場において最大の取引シェアを持つドル円(2011年は金額ベースで31.5%)の2011年の値動きは変動相場制移行後で最小となった。値動きの小さいドル円相場で収益を上げるためにFX投資家は高レバレッジを選択せざるを得なかったのかもしれない。

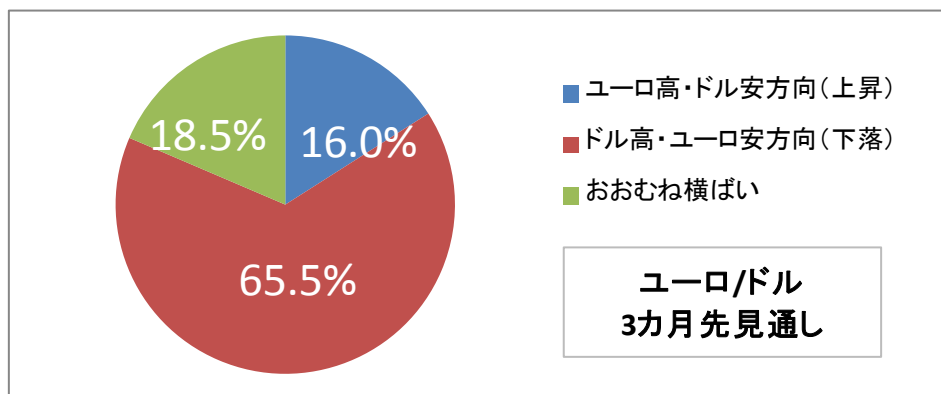


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

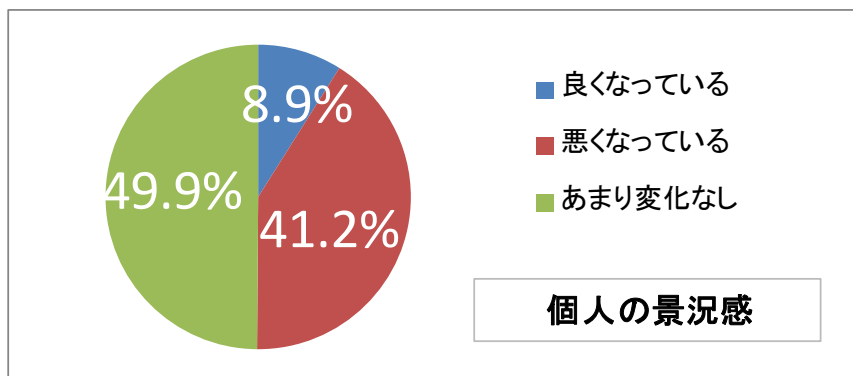
問10: 今後3カ月間のユーロ/ドル相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、今後3カ月間のユーロ/ドル相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)とたずねたところ、「ユーロ高・ドル安」と答えた割合が16.0%であったのに対し「ドル高・ユーロ安」と答えた割合は65.5%となった。問3における今後1ヶ月間のユーロ円相場の見通しとほぼ同じ回答割合であり、圧倒的にユーロ弱気派が多い。また、予想の理由を自由記述形式で回答してもらったところ、ユーロ安・ドル高を見込む向きからは「債務危機はさらに深刻化する」との声が多かった。なお、外為どっとコム総研がHP上で実施したオンライン調査では「欧州債務危機の終息はいつ頃になるか」との問いに「2013年以降」と答えた割合が過半数に達しており、FX投資家が中長期的にもユーロに対して弱気である事を示唆している。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「良くなっている」が8.9%、「悪くなっている」が41.2%、「あまり変化なし」が49.9%という結果となった。3ヶ月前の第29回調査では「良くなっている」が6.8%、「悪くなっている」が47.1%であった。3ヶ月前に比べるとFX投資家の景況感はやや改善傾向にあるものの「良くなっている」が依然として一桁台の回答割合にとどまるなど、大幅な改善は見られない。日本の経済・社会・政治に対する閉塞感を打破するきっかけが見つからない事が最大の原因であろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第32回目となりました。調査開始後2年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8

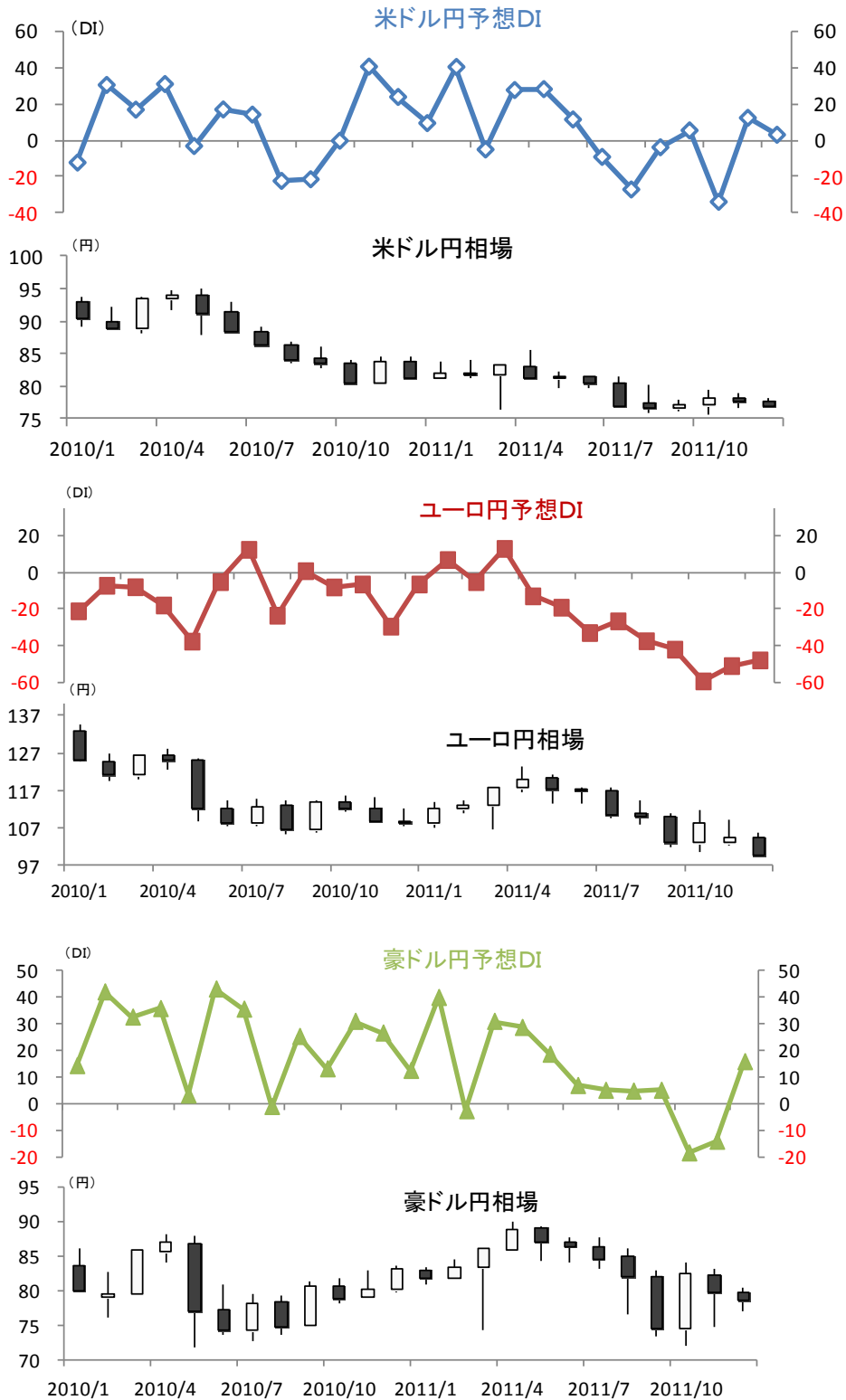
(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com